



なばり

2011年(平成23年) 9月18日発行

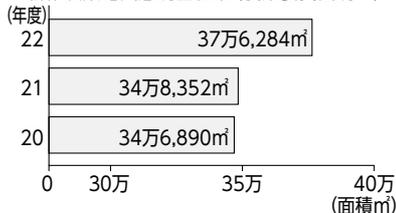
主 内容

- 1・2……市民広報特派員レポート
- 3……アドバンスコープADSホール催物、年金通信
- 4……市民文化祭、老人クラブの現状を聞く

発行/名張市企画財政部広報対話室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1 ☎0595-63-7402 ✉pr@city.nabari.mie.jp 🌐http://www.city.nabari.lg.jp



耕作放棄地実態調査結果(農業委員会調べ)



※耕作放棄地面積に、山林化など修復不能な田畑は含まれていません。

竜口区では、シカ、イノシシ、サルの被害が毎年出ています。シカ、イノシシの獣害対策として山沿いの草刈りをしっかりとすることで、隠れる場所を無くす取り組みをしています。また、区では地域獣害対策実施リーダーの百地政治さんにワナの狩猟免許の取得を依頼、シカ、イノシシの捕獲をお願いしていますが、解体は、区民で行っています。解体した肉は冷凍保存して竜口のイベントなどで活用しています。

サルは扉を開けて家に入ってきて冷蔵庫を開けたり、仏壇のお菓子を食べたりと好き放題。そのた

竜口区長 森哲夫さん

竜口区

住民全員での追い払いサルを追い払う意識が大切

め、家の中にいるのに鍵をかけたければならない生活が続きました。しかし、サルに取られるという意識ではダメ。サルを追い払うという意識が大切です。地区の会議など区民が集まるごとに、サルの追い払いについて訴えたり、区ではサル追い払い用にロケット花火と発射装置を各戸に配布したりしています。



十数年前には「サルが出てくる竜口」と他地区の人に笑われたものです。しかし、現在は多くの地域でサルの被害が出ています。

竜口区で、サルや、イノシシ、シカの被害が多くなったところから、ボランティアで三重県の「地域獣害対策実施リーダー(アドバイザー)」として活動。研修でロケット花火によるサル追い払いの方法を学び、それを地区の皆さんに紹介。サルの看板を作り、地区のみんなが看板に向かってロケット花火の発射練習を行いました。

一人だけが、花火を使って追い払うのではなく、みんなで追い払うということが大切なのです。今

地域獣害対策実施リーダー 百地政治さん



塩ビ製発射装置にロケット花火をいれて、狙いを定める百地さん

では、サル追い払いの花火の音を聞くと、女性もロケット花火を持って外に飛び出します。

もう一つ大切なのが、サルの寝床に打ち込むことです。サルは、花火の届く距離を学習し、花火の届かない場所にいるので、人が近づいて打たなければなりません。みんなでロケット花火を打つことで、サルにとっては住みにくくなり、竜口に寝床を構えず通過するようになりました。

テーマ

鳥獣害対策をみんなが進めよう!

市民広報特派員レポート

リポーター

市民広報特派員
小田 俊朗さん
(安部田)



名張市猟友会会員

狩猟免許を取得し、名張市猟友会に会した2008年から地域の皆さんの声を聴きながら有害獣の駆除を行っています。

しかし、獣害で農業をあきらめる声が多く先輩農業者から聞こえてきます。このままでは耕作放棄地が増え、名張の農業が元気をなくしてしまいます。今、百合が丘、つつじが丘、富貴ヶ丘や名張地域でも獣害があります。放置すると名張市のまちが“自然動物園”になりかねません。動物たちと共生しながら、名張市の自然の豊かさを生かしたまちづくりが、今、早急に求められていると思います。市の総合計画にあるように野生鳥獣被害の防止対策を進め、良好な生産基盤の保全に努めるとともに、地域ぐるみの取組みが必要です。

今回は市内で鳥獣害対策に取り組む皆さんをはじめ、市や農協に取組み内容などを聞きしました。



◀宇陀川近くに設置した檻でヌートリアを捕獲

▼市民広報特派員レポート：市民参加の広報紙づくりを行うため、市では市民広報特派員を委嘱。地域のさまざまな課題についてレポート(報告)いただいています。